

風土に根ざした 伝統文化を大切に

古来からの風土に根ざした勝れた文化社会的に価値のある遺跡、あるいは文化し、これをひとつの地域の産業として伸ではないでしょうか。

・伝統というものは大事にしたいものの保存。野趣に満ちた伝統工芸を掘り起こすこと。いずれも大変に意義のあること

伝統工芸

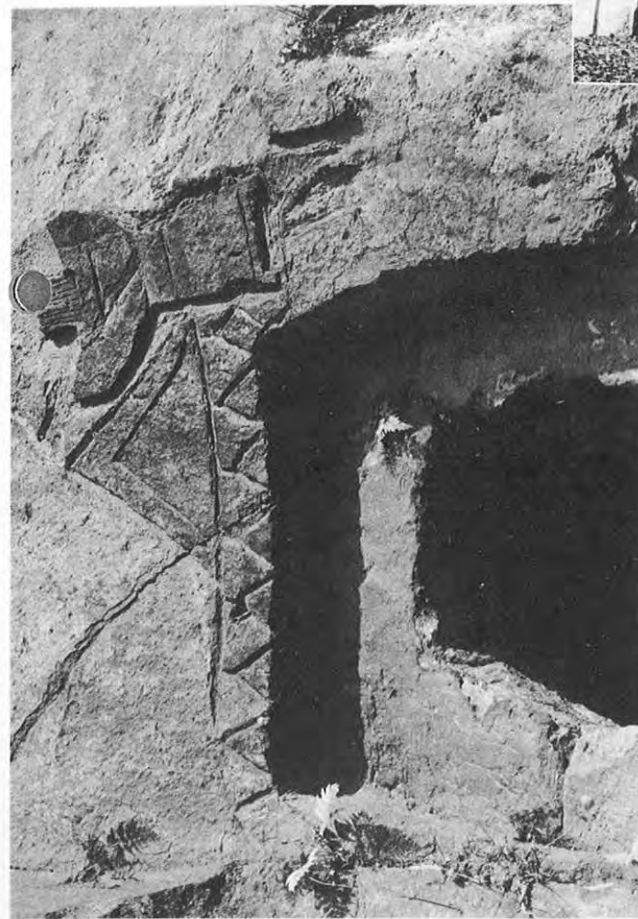
文化財



郡浦の天神樟 (宇土郡三角町)

|| 県指定天然記念物 ||

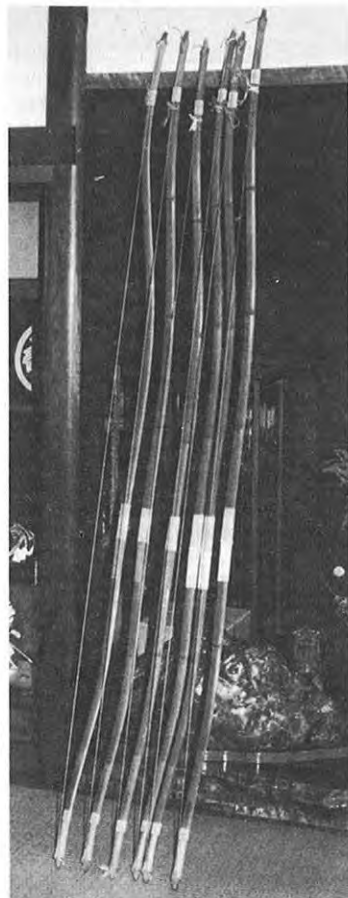
不知火海に面した三角町大字中村(旧郡浦村)に、ひとときわ目立つ大きな樟の木があり、天然樟と呼ばれ、御神木として崇敬されています。根まわり二十三メートル、幹まわり十五メートル、樹高二十三メートルの巨樹で、主幹の下部は空洞となっていますが、樹勢は盛んです。地上三・五メートルのところ、五つの大枝に分かれています。樹齢約千年と推定され、大きさと樹齢といふ県下第一の樟。



大村横穴群 (人吉市城本町)

|| 国指定史跡 ||

国鉄人吉駅の裏手の崖に二十数基の横穴があります。横穴は、古墳時代後期(六〜七世紀)に造られた墓で、その入口近くや内部に装飾をもつものがあります。大村横穴群では六基に装飾がありますが、写真は七号墳で、上部に連続三角文と靴(矢を入れる用具)、その下には弓が半分残っています。他にも武器・武具・動物等が浮彫りにされています。



▲ 精根こめて作られた弓

弓

(肥後三郎名)

|| 芦北郡芦北町白石 ||

松永重児さん七十八歳、当代随一の弓師。松永さんの作る弓は「肥後三郎」の名で知られる。京弓のやさしさと薩摩弓の力強さを兼ね備えた名弓だ。大正十三年、二十六歳の時材料となる竹やハゼの木の豊富な球磨川に魅せられ東京より移り住む。以来五十余年球磨川べりで弓づくり一筋に歩んでいる。

松永さんは語る「やさしさの中に力のある弓、これが私の理想とする弓です。でも、五十年の長い年月の中にも会心の作品というものはありません。この頃になって私は弓師というものは怖ろしいものだと考えます。自分の作品に自分の気持が正直に映るからです。自分の気持が作品にどんなふう映っているか、それを知る時の怖ろしさといったらありません……」と。



▲ 弓打ち(竹のクサビを打ち込み弓を曲げる技術のこと)